

「ラマダンのインドネシア人」

中川 智明

本記事を執筆している本日は、ラマダン（断食月）の真っ最中です。インドネシアは87%程度がイスラム教徒で、ラマダンの時期（2023.3.22~4.20）は街の雰囲気は全く変わります。ラマダン中は会社の勤務時間帯も変更され、業務の開始、終了時刻も早まります。夕暮れとともに断食が解かれ、家族みんなで食事をする事が一番の楽しみなので、午後6時くらいには街から人がいなくなります。モール内のレストランでは大人数でテーブルを囲む家族の姿が見られます。日本と違って面白いのは、午後5時半くらいから何もオーダーせずにレストランのテーブルを占拠し、食事が許される午後6時までの30分程度、家族みんなで顔を見合わせながら待つのです。このような日々が家族の絆になっているようで微笑ましいです。断食中の時間帯は、イスラム教徒には見えないように幕のような物を張ってあるレストランもあります。

「断食なんて、すごいな」と言うとすごいドヤ顔で「へへへ」と返してきます。その表情からは、断食をするのは良いこと、素晴らしいこと、誇らしいこと、との認識であることが分かります。深いことは知らないのですが、断食は「飢餓の苦しみを理解し、欲望を抑える」という意味で重要視されているようです。

皆さんイスラム教の教えに従順であり、そのことに誇りを持っているので、イスラム教やその関連をばかにするような発言はしてはいけません。いけないどころか、信仰心が大変強い人もいますので、こちらの想像できない強い反発を受けることもあります。暴力どころか殺人事件になることもあります。このような感情は、なかなか日本人には理解しにくいと思いますが、インドネシアに来られた時は要注意です。

一方で、インドネシアは宗教の自由を重んじており、他の宗教も許容していますので、私のような日本人でイスラム教徒以外の人間も、生活しにくいほどではありません。先述のように気を付けるポイントさえ外さなければ、問題なく毎日過ごせます。このように、違いや多様性を受け入れるところも、インドネシアの良いところと感じます。ちなみに先日社内の食事会で宗教の話になり、「私は無宗教だよ、日本人にはそういう人が多いよ。でも、クリスマスやバレンタインデーがあって、お盆は仏様にお祈りするよ。」と言ったら、

大笑いされました。毎日お祈りする彼らからすると、おそらくすごくいいかげんな宗教観だと思いますが、多様性を受け入れるインドネシア人だからこそ、その違いを面白がってくれたのだと思いました。



【多くの信者が祈りに訪れたモスク】

こちらの記事は、中国新聞 SELECT「最前線ビジネスサポーター発」にも一部掲載されました。